国語科（国語総合）学習指導案　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　＊＊＊＊＊　印

一　日　時　　　平成＊＊年＊＊月＊＊日（＊曜日）　第＊時間目（50分）

二　学　級　　　第一学年＊組（男子＊＊名　女子＊＊名）

三　単元名　　　様々な文章と読み比べることで読解を深めよう

四　単元の目標

（１）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）

（２）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読む能力）（「Ｃ読むこと」（１）のウ）

（３）文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。(知識・理解)（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（１）のイの（イ））

五　取り上げる言語活動と教材

（１）言語活動

　　　様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

（読む能力）（「Ｃ読むこと」（２）のエ）

（２）教材　芥川龍之介「羅生門」（『国語総合』＊＊出版）、「今昔物語集」、「方丈記」

六　単元の具体的な評価規準

（１）人物、情景、心情などを恣意的にならぬよう表現に即して読み味わい、どのように描かれているか的確に読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度）

（２）人物、情景、心情などを恣意的にならぬよう表現に即して読み味わい、どのように描かれているか的確に

読み取っている。（読む能力）

（３）段落の組み立て、語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かにしている。（知識・理解）

七　指導観

（１）単元観

　　　基になった古典作品との読み比べで見つかる設定や表現の相違から、作者の意図を考えることができる。

また、他の生徒と話し合うことで多様な読みと解釈が存在することを知り、ものの見方、考え方を豊かに

することができる。

（２）学習者観

　　　学習態度はおおむね真面目であり、落ち着いて授業にのぞむことができる。ただ、受け身の姿勢が強いた

め、定期考査や小テストが迫らないと努力せず、主体的に学習することは苦手な生徒である。小説は評論

よりも読みやすいので、今回の授業を通して、作品を分析するおもしろさを感じさせたい。

（３）教材観

　　　読みやすく、内容も深い小説の定番教材である。読み比べや話し合いを通して、自分とは異なる着眼点や

同じ着眼点による解釈の違いを知り、読解の幅広さ、奥行きを感じさせたい。また、表現方法や読解方法

を学ばせることによって、作品への興味・関心をいっそう高めることができる。

八　単元の指導計画（配当時間７時間）

|  |  |
| --- | --- |
| 第１次５時間 | 次時間 |
| ・作者芥川龍之介の人物像や物語の舞台となる平安時代 | 学　習　活　動 |
| ・教科書に載る本文と「羅生門」の初出本文とを読み比べさせ、物語の | 言語活動に関する指導上の留意点 |
| ◇（３）◆記述の点検（ノート） | ◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて |

|  |  |
| --- | --- |
| 第２次２時間 |  |
| ・「今昔物語集」と「羅生門」の読み比べから、作者の表現意図を考える。・他者の意見と比較して、自分の考えを深める。・班で意見を発表し合い、班としての意見を二点までに絞る。・成員で発表原稿を作成する。・班ごとに発表を行い、聞き手は評価する。・発表を聞いた後、再度自分の意見をまとめる。 | 　について理解を深める。・下人が羅生門下で途方に暮れる理由を押さえる。・下人と老婆の「生きるための論理」を比較する。・物語最後の表現がどのような効果をもつか考える。 |
| ・物語の設定や筋書が、「今昔物語集」と「羅生門」とではどのように違うかに着目させ、筆者の意図を考えさせる。・ワークシートⅠに自分の意見をまとめさせる。・四人程度の班を作り、意見発表をさせる。発表後ワークシートⅠを半分に切り、同じ意見を重ねて種類分けをさせるとよい。・客観的な根拠に基づいた意見か否かを検討させ、班として発表する意見を選ばせる。・発表原稿は、ワークシートⅠを切ったものを貼り付けてもよい。発表者を決めておく。・自分と異なる考えを知ることで、作品に対する理解を深化させ、また自分の視野を広げさせる。・ワークシートⅡに最終的な自分の意見をまとめる。 | 設定を「今昔物語集」や「方丈記」と比較させ、表現への興味・関心を促す。・下人と老婆それぞれの「生きるための論理」を理解した上で、主題を自分の問題としても捉え、考えが深まるように指導する。 |
| ◇（１）◆発言・行動の観察◇（２）◆記述の分析（ワークシートⅡ・相互評価表）＊班の発表原稿・相互評価表などを使って、どの意見に納得したかを振り返らせ、まとめさせる。 | ＊心情が表れた箇所に傍線や記号をつけさせ、心理を確認させる。 |

九　本時の目標

　　クラスメートの解釈を聞くことにより、さまざまなものの見方を知るとともに、「羅生門」に対する理解を深める。（読む能力）

十　本時の評価規準

　　「羅生門」に関する多様な着眼点を知り、自分の考えと比較しながら作品理解を深めている。（読む能力）

十一　本時（全７時間中の７時間目）の指導

|  |
| --- |
| 学習段階 |
| 学　習　内　容 |
| 学　習　活　動 |
| 言語活動における指導上の留意点 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 終結（３分） | 展開(44分) | （３分）導入 |
| ・本時の学習内容を振り返る。・次時の内容を知る。 | ・班の発表（１班あ　たり持ち時間２分。10班行う）・相互評価表の記入・自分の意見をまとめる。 | ・本時の学習内容を知り、班活動の準　備をする。 |
| ⑤読み比べの目的を確認する。⑥新しい教材の紹介をする。 | ②班の代表者は教壇に立ち、発表原 稿を読み上げる。 ③相互評価表を記入し、相互評価する。④ワークシートⅡをまとめる。 | ①本時の発表方法と、配布された相互評価表の扱い方を理解する。 |
| ◇（１）◆記述の確認（相互評価表）◇（２）◆記述の分析（ワークシートⅡ）⑥予習の指示をする。 | ②「羅生門」「今昔物語集」の比較により導き出された意見であるか検討させる。③相互評価により、自身を客観視させる。④本時の総括として、ワークシート　　　Ⅱに自分の意見をまとめさせる。⑤相互評価表とワークシートⅡを回収する。 | ①論理の飛躍がないか、明白な根拠があるかという点に着目させ、恣意的な読解をしていないか確認させる。 |

十二　御高評